

October 4, 1990

Cable No. 1197 from Ambassador Nonoyama Tadayuki (Jordan) to the Minister of Foreign Affairs, 'Meeting of Prime Minister Kaifu with Crown Prince Hassan (Briefing for Accompanying Reporters)'

Citation:

"Cable No. 1197 from Ambassador Nonoyama Tadayuki (Jordan) to the Minister of Foreign Affairs, 'Meeting of Prime Minister Kaifu with Crown Prince Hassan (Briefing for Accompanying Reporters)'" , October 4, 1990, Wilson Center Digital Archive, Published online by the Ministry of Foreign Affairs of Japan, File 2021-0533. Translated by Stephen Mercado. <https://digitalarchive.umd.edu/document/300972>

Summary:

Briefing for accompanying reports about Japanese Prime Minister Kaifu's meeting with Jordanian Crown Prince Hassan during Kaifu's visit to the Middle East following Iraq's invasion of Kuwait.

Credits:

This document was made possible with support from The Woodrow Wilson International Center for Scholars

Original Language:

Japanese

Contents:

Original Scan
Translation - English

04/21:03 4935 02/08 P01 R199382

注意 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
 2. 本電の内容に関する照会は検閲班(内線2171、2174)。
 3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班(内線3169)に連絡ありたい。

電信写

08-059

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

大務務 典房
次次
臣秘官官審審長長

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

経外査即 博代
大大 察位 代表
使使研審準 表

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

対文 厚情オ
活 審察 儀警史

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

報官

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

長

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

参政保对旅外

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

審地中東
参北東西

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

審一二保地

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

参一二

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

審西ソ洋
西東

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

二アア

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

次経途博
経漁国
経エ国
安ネ二

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

参海 審準

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

審政国語無
参調技有理

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

審条協規

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

審政経人
審草社

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

科原

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

参折調
安

総番号 R199382

主管

月 4日

ジョルダン

発

報

報

平成 2年 10月 4日

本省

着

外務大臣殿

野々山大使

海部総理とハサン皇太子の会談(同行記者ブリーフ)

第1197号 大至急

1. 3日行われた標記会談に関するワタナベ中近東アフリカ局長の同行記者ブリーフ概要次のとおり。

(1) 標記会談は3日18時30分より約45分間王きゆう内で行われた。同席者は先方シャケル王きゆう長官、アブオデ国王政治顧問、当方野々山大使、オワダ外審、私(ワタナベ局長)であつた。

(2) (イ) 湾がん危機に関するジョルダンのよつてたつ原則につき以下の通り皇太子より説明。

(i) ジョルダンは自らの歴史からいつて、戦争による領土の取得は認められぬ。

(i i) イラクのクウェイト侵攻・へい合を非難する。

(i i i) イラクの即時撤退とクウェイトの正統政府の復活を求める。

(I V) ジョルダンは経済制裁をじゅん守するが、その結果「ジョ」経済は破産にひんしている。

(V) いわゆる外国人の人質問題は国際法違反で不法な行為である。

(V I) 平和的な方法による解決の必要を強調したく、ジョルダンはその点に重要な役割を果たせると思う。

この関係で、アラブの間に完全な統一が無いことは自分達も承知しており、国際社会がアラブの統一を何時までも待つことはできないということも承知している。自分達は先般のモロッコ、アルジェリア、ジョルダンの三者会談に見られたように、アラブの中で多国籍軍を支持する考え方とこの問題の解決にはアラブの要素を含めねばならぬとの立場との間にはむじゅんが無いので、この両者の立場の者が協力して解決をしていくことが必要である。

(3) (イ) ジョルダンが今回の事態で迎えた困難の特殊性について皇太子より以下の通り説明。

(i) ジョルダンは、イラク、クウェイト、サウデイ各々と言わば有機的に結び付けられた国で、そういう国が経済制裁を実施することでどれだけの困難を受けるかが必ずしも国際的に理解されていないのではない

04/21:03 4905 02/08 P02 R199382

電信写

か。経済面のみならず、例えばジョルダンを避けて多数の難民が上記の国々から出国するが、これはそうした有機的な結び付きを示すひょう山の一かくである。自分は、全体としてジョルダンの困難がどれだけのものかを調査する特別調査団の指名をNYで国連事務総長にお願いした。

(i i) サウデイとの現在の関係、立場の違いが一時的なものであることを強く希望する。

(ロ) 上記に対し総理は次の通り発言。

(i) ジョルダンが困難な状況の中で、武力の侵攻を認めない、クウェイト正統政府の復旧、外国人の人質の解放が必要であるとの原則を維持していることにけい意を表わす。

(i i) 日本としてはその理念からいつても、問題の平和的解決をねばり強く求める必要があると考える。そのためには全ての国が経済制裁をじゅん守することが必要であり、この点につきジョルダンとも協議して行きたい。

(i i i) ジョルダンが経済制裁を厳守し続けることを期待して、緊急商品借かん総額6億ドルのうち1億ドル、従来から話し合われていた産業貿易調整計画ローン（世界銀行との協調融資）1億5千万ドルを供与、具体的には事務レベルでつめさせたい。今後情勢の推移を見つつIMFその他との国際協調の下で、更なる協力の可能性を検討したい。

(i v) 難民の受入れについて、これまで国際機関を通じ、あるいはジョルダンに直接に支援をしてきた。日航機第2便が明後日比難民送かんを目的としてジョルダンに到着する。

(ハ) 上記に対し、皇太子は、謝意を表わしたいとして「困つた時の友人は真の友人」とのアラブことわざをひろう。

(4) 総理より今後の湾がん情勢の展望を聞いたところ皇太子は以下の通り応答。

(イ) イラクのクウェイト撤退を要請する安保理決議660の中に、撤退後イラクとクウェイトの直接交渉で問題を解決すべきだとの規程とアラブ連盟がそのための役割を果たすべきとの規程がある。従つてこの規程によればイラクのクウェイト撤退が無条件であるのは明らかだが、その後これらの条項を使つて何らかの了解を達成することが考えられるのではないかと思う。モロッコ、アルジェリア、ジョルダンの三者協議はそうした考えに基づいている。

(ロ) 将来の話として、中東でCSCCのような方式を考えるべきではないかと思う。その中では武力によ

04/21:03 4905 02/08 P03 R199382

電信写

る他国への干渉を否定する原則に合意すること、大量破かいへいきを中心とした軍備の縮小をはかること、石油の生産国・消費国共同の安定基金を作つて域内の経済開発をはかることの三点を達成できないかと考えている。

(ハ) いずれにしてもジョルダンはイラクを含めた如何なる国から影響を受けていることはなく、自らの原則で行動しており、困難だが平和的解決のために今後も全力をつくしていきたい。

(5) 上記に対し、総理はジョルダンの困難な立場はじゆう分理解しており、中東の中長期的な将来の問題についても協力していきたい旨最後に発言。

2. 主たる質疑応答。

(問) モロッコ、アルジェリア、ジョルダンの三者協議とは何か。

(答) モロッコで9月19、20日に同協議が行われた。アラブの中で多国籍軍を支持している国とどちらかと言えばアラブの解決が必要だとしている国との立場は必ずしもむじゆんしないということでこの三者協議をしているとのことである。即ち、モロッコは多国籍軍に参加しているが、ジョルダンとアルジェリアは後者の国である。

(問) その二つの立場は明らかにむじゆんしているように思えるが。

(答) 必ずしもそうではないと思う。先方は上記以上に説明しなかつたが、国際的な解決を求めるにあつて、アラブとしての解決案を出すことは可能で、その解決案の中で多国籍軍をどうしていくかにつき対応していくことも可能ではないか。

(問) ジョルダン側の言い方は大臣訪「ジョ」の時と変わったか。

(答) 原則のところは変わっていないと思う。

(問) 1億5千万ドルのローンの性格は。

(答) 基金と輸銀で半額ずつの融資を行う。従来からジョルダンが産業・輸出振この分野で構造調整を行つており、それに対して世銀が融資をし、日本もそれに協調融資をするということで話が進んできた。

(問) その1億5千万ドルは例の14億ドルの中から出すのか。

(答) 円借部分、輸銀分がともに内数である。(了)

Telegraphic Copy [blacked out] 08-059

Number R199382

Primary: Director-General for Press and Public Diplomacy

October 4, 1990 [time blacked out]
Sent [from] Jordan

October 4, 1990 [time blacked out]
Arrived [at] Ministry

[to] Minister of Foreign Affairs
[from] Ambassador Nonoyama Tadayuki

Meeting of Prime Minister Kaifu with Crown Prince Hassan (Briefing for Accompanying Reporters)

No. 1197 Top Urgent [blacked out]

1. The main points of the briefing that Watanabe Makoto, Director of the Middle Eastern and African Affairs Bureau, gave on October 3 for accompanying reporters are as follows:

(1) The aforementioned meeting took place on October 3 in the royal palace for approximately 45 minutes from 18:30. Present from the other side were Zayd bin Shakir, Chief of the Royal Court, and Adnan Abu Odeh, political advisor to the King. Present from our side were Nonoyama Tadayuki, Ambassador to Jordan; Owada Hisashi, Deputy Minister for Foreign Affairs; and myself (Owada Makoto, Director, Middle Eastern and African Affairs Bureau).

(2) [No text in this part before "(a)"]

(a) The Crown Prince explained as follows the principles on which Jordan stands regarding the Gulf crisis.

(i) Jordan, on the basis of its own history, cannot accept the acquisition of territory through war.

(ii) Jordan denounces Iraq's invasion and annexation of Kuwait.

(iii) Jordan demands Iraq's immediate withdrawal from Kuwait and the restoration of Kuwait's legitimate government.

(iv) Jordan is complying with the economic sanctions, but its economy as a result is on the verge of collapse.

(v) The issue of the so-called foreign hostages is an illegal act in violation of international law.

(vi) I wish to emphasize the need for a settlement by peaceful means and believe that Jordan can play an important role in that regard. In this connection, I am aware that there is no complete unification among the Arabs and also that the international community cannot wait forever for that unification. As seen in the recent tripartite talks among Morocco, Algeria, and Jordan, there is no contradiction between the idea among Arabs of supporting the multinational force and the position that there must be included Arab factors in the settlement of this issue. Therefore, what we need is for people from both positions to cooperate and devise a settlement.

(3) [No text in this part before "(a)"]

(a) The Crown Prince explained as follows the special character of the national crisis

that Jordan faced in this situation.

(i) Jordan is a country joined, so to speak, organically to Iraq, Kuwait, and Saudi Arabia. When such a country implements economic sanctions, it may not be understood internationally how much hardship that country suffers. It is not only economic hardship. For example, when many refugees from the aforementioned countries leave those countries through Jordan, this is only the tip of the iceberg showing such organic links. I have asked the United Nations Secretary General in New York to name a special survey team to survey overall how many refugees in Jordan there are.

(ii) I strongly hope that the differences at present in relations with Saudi Arabia and in our positions are temporary ones.

(b) The Prime Minister replied to the above with the following statements:

(i) I express my respect for Jordan's maintaining in the midst of difficult circumstances its principles of not recognizing armed invasion and of the need for the restoration of Kuwait's legitimate government and the release of the foreign hostages.

(ii) On account of those principles, Japan considers it necessary to persistently call for a peaceful settlement of the issue. For that, it is necessary for all the countries to observe the economic sanctions. I would like to have discussions on this matter.

(iii) In the expectation that Jordan will continue to observe the economic sanctions, Japan will provide Jordan with 100 million dollars of a total 600 million dollars in emergency commodity loans and 150 million dollars of previously discussed industrial and trade adjustment project loans (co-financing with the World Bank). I would like to have the details worked out at the working level. I would like to consider, in keeping an eye on future development, the possibility of further cooperation in coordination with the International Monetary Fund (IMF) and other international bodies.

(iv) Japan has so far given aid for accepting refugees either through international organizations or directly to Jordan. Two Japan Airlines aircraft will be landing the day after tomorrow in Jordan to repatriate refugees.

(c) The Crown Prince, wishing to express his respect for the above, cited an Arab proverb that "a friend in times of trouble is a true friend."

(4) The Crown Prince, having heard the Prime Minister's outlook for the future situation in the Gulf, replied as follows:

(a) In the middle of Security Council Resolution 660, which calls on Iraq to withdraw from Kuwait, there is a stipulation that the issue should be settled following withdrawal by direct negotiations between Iraq and Kuwait and a stipulation that the Arab League should play a role in that. Consequently, according to the stipulation, Iraq's withdrawal from Kuwait is unconditional, but I think that it may be conceivable to reach some sort of understanding after that in using these clauses. The tripartite discussions among Morocco, Algeria, and Jordan are based on such thinking.

(b) I think it may be necessary to consider for future discussion a formula like that of the Commission on Cooperation and Security in Europe (CSCE). I think that, among them, we may be able to achieve three points: agreement on the principle of renouncing military intervention in another country; working towards disarmament, with weapons of mass destruction at the center; and working towards regional economic development in creating a stability fund for both oil producing and consuming countries.

(c) In any event, Jordan, not influenced by any other country, including Iraq, acts according to its own principles. Although there are difficulties, I would like to continue doing everything in my power for the sake of a peaceful settlement.

(5) In reply to the above, the Prime Minister stated that he fully understood Jordan's difficult position and finished by stating that he wished to continue cooperating on the Middle East's future middle and long-term issues.

2. Main Questions and Answers

(Question) What are the tripartite talks among Morocco, Algeria, and Jordan?

(Answer) The talks took place on September 19 and 20 in Morocco. They are conducting the tripartite talks on the basis of the idea that the positions of Arab

countries that support the multinational force and the position of those who argue for the need for an Arab settlement of the issue are not necessarily contradictory. That is to say, Morocco supports the multinational force, but Jordan and Algeria are the latter countries.

(Question) Do these two positions appear to be clearly contradictory?

(Answer) No, I do not think that this is necessarily the case. The other side offered no further explanation but, in seeking an international settlement, putting forth an Arab proposal for a settlement is possible. Is it not also possible to devise measures on how to proceed with the multinational force in the settlement proposal?

(Question) Has the Jordanian side's language changed from the time of the Foreign Minister's visit to Jordan?

(Answer) I do not think that it has changed in its principle.

(Question) What is the character of the loans for 150 million dollars?

(Answer) The Overseas Economic Cooperation Fund (OECF) and the World Bank each will provide half the funding. Jordan in the past has carried out structural adjustments in the fields of industrial and export promotion. Talks have progressed on the idea of the World Bank providing financing for that and Japan providing the co-financing.

(Question) Will that 150 million dollars come from the aforementioned 1.4 billion dollars?

(Answer) The yen loan portion and the World Bank portion are both included in the figure. (End)